

三鷹市における「こども園」への取り組み

○ 三鷹市の公立こども園整備の経緯

三鷹市は、平成１０年当時５園あった市立幼稚園のうちの２園を廃止し、一つは学童保育所と児童館・親子ひろばの機能を併せ持つ子育て支援複合施設機能として平成１１年度に、もう一つは全国初の株式会社に運営委託をする公設民営保育所として平成１３年度にそれぞれオープンしました。続いて平成１４年６月開催の市議会定例会で残る市立幼稚園３園の廃止を決定し、平成１５年４月に就任した清原慶子市長が、平成１６年度から１８年度にかけて３園を廃園し、公設民営保育所として整備しました。

三鷹市の市立幼稚園は、昭和３０～４０年代の人口急増期に私立幼稚園を補完するために設立されました。その後、少子化が進み、私立幼稚園にも欠員が生じているなど、そうした公立幼稚園の役割が終了し、また、就業率の向上により、保育所の入所待機児童が増加しているなど、次代のニーズに合った新たな子育て支援施設の展開が必要になりました。そこで、幼稚園教育については民間に委ね、廃園後の施設活用については幅広い子育て支援施設への転用を視野に入れ、広く関係者の意見を聞きながらその活用策を検討していくこととしました。その中で出てきたのが、平成１７年度をもって廃止したちどり幼稚園のこども園化でした。

国において、認定こども園に関する法律「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が平成１８年１０月１日から施行され、幼保一体化施設への取り組みが具体的に示されたことから、三鷹市においても市立幼稚園で実践されてきた研究・研修内容を踏まえた児童の発達を促す教材の活用や人的・物的な環境構成のノウハウを継承し、また、幼・保・小連携の取り組みにも資する施設として平成１９年４月にちどりこども園を開設しました。

ちどりこども園は、ちどり幼稚園廃園後の施設整備に関する基本方針を受け、幼児教育機能を持った新しい形の保育園をベースとしたこども園として耐震補強を施して改修・整備しました。運営は、市と強固な連携がとれる社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団に委託し、公設民営を基本としながら、市から園長をはじめ保育士・教諭等の半数程度を法人に派遣するとともに、事業団の保育士等による運営を進めて保育の質を担保した事業展開を行い、派遣職員は、運営の状況を見ながら順次引き上げ、緩やかな移行を図ってきました。ちどりこども園は、多くの公立のこども園がそうであるように認定こども園の認定を受けてはいませんが、認定こども園の４つの類型では、保育所型に位置づけられる保育施設です。その概要については、別紙資料「ちどりこども園保育プラン」をご覧くださいと思います。

○ 三鷹市の民間認定こども園の状況

三鷹市には現在１６園の私立幼稚園があります。現在１６園のうち１５園で預かり保育を実施しています。その園の中から中原

幼稚園に平成21年4月に幼稚園型の認定こども園になっていただきました。別紙資料「認定こども園三鷹中原幼稚園」をご覧ください。他の市内の幼稚園からも認定こども園の開設についてのご相談を受けたことはありますが、具体的な認定こども園が開設される予定は現在ありません（市内の民間認可保育所からの保育所型開設の相談はない）。三鷹市に限らず、認定こども園が普及しない理由にはいくつか挙げられてきましたが、今までの議論の中では、主に以下のようなものがありました。

- ① こども園化しても幼稚園と保育所の利用料の違い、預かり時間の長短の差など幼保の制度の違いによる問題は依然として解消されていない。
- ② 会計基準の違い、法人制度の違い、財政措置の違い、地方行政所管の違い、最低基準の違いなど現行制度上の運用ラインの限界（言わば二重行政の影響）のため、幼稚園部分と保育所部分に対してそれぞれ別々に管理運営していかなければならない。
- ③ 財政的支援の不足

これらをまとめると、幼稚園と保育所の制度を統合すべき内容のこども園に係る基準や手続きが、相変わらず、文部科学省と厚生労働省の縦割りで行われており、手続きの煩雑さの割には、財政的メリットが少ないという意見が多かったことです。ただ、ここ数年は、幼稚園経営者の方たちにとって、今後の見通しが不透明なため様子を見ざるを得ないというのが実態のようです。

∞

○ 待機児童解消策としての認定こども園の意義

三鷹市においては、ちどりこども園の幼稚園タイプに入所の児童の世帯の中にも中原幼稚園の認定こども園部分に入所の児童の世帯の中にも現在のところ、認可保育所の申し込みをされている方はほとんどいません。つまり、厚生労働省の新定義における待機児童数算出のために認定子ども園の入所者数は機能していないことになります。これは、認定こども園に「保育に欠ける」要件が必要とされていない考え方と密接に関連していて、現在認可保育所に入所希望しているが入所がかなわない待機児童世帯の方々と、認定こども園に申し込んでいる世帯の方々の層が異なっているといえます。その要因としては、保育の必要性の度合いや、保育料の応能負担と応益負担の違い、セーフティネット機能の必要性等が挙げられると考えます。

○ 子ども・子育て新システムにおけるこども園の課題

新システムにおいて、「保育に欠ける」要件から「保育・サービスを必要とする」要件への改革が考えられていますが、そういう意味においては既に、認定こども園や東京都認証保育所に入所するための要件は新システムでいうところの要件に近くなっているといえましょう。ただ、すべての必要とする家庭への保育サービス需要を満たすためにはそれを保障するだけの絶対的な保育施設の量的な確保に加えて保育料の応能負担の考え方やセーフティネット機能の確保が必要と考えます。



ちどりこども園 保育プラン

保育園保育と幼稚園教育の 双方の良さが広がるこども園

子ども達の

なぜ? どうして?を大事にし

やってみたい! 知りたい!を援助し、
できた! わかった! うれしい!の感動に
共感する保育をします!



<保育理念>

<輝く子どもを育てる>

ひとりが輝く(個の充実)

ふたりが輝く
(コミュニケーション能力の育成)

みんなが輝く(幼児期の充実)

「子どもは育つ能力をもっている」「子どもは
仲間の中で大きく育つ」という確信の下、「夢
を持ち、明日に向かって行動し、友達と共感で
きる子ども」を育成します。

<カリキュラムの特色>

(1.2歳児)

信頼できる大人と安全な環境の中で、安心して生活する
ことを基本にし、興味や関心を十分に受けとめると共に、
探索活動を促していきます。

(3歳児)

生活習慣をほぼ身につけ、必要な言葉を獲得していきま
す。身近な人間関係の中で自分の存在を知り、友達への
関心を深め、あそびを広げられるように援助します。

(4歳児)

行動や感情の揺れ動きしっかり受けとめながら、集団の
中で一人ひとりが自己発揮できるように仲間関係を広
げていきます。

(5歳児)

今までの経験から友達との喜びの共感・満足感を味わい、
自信や意欲へつなげていきます。気持ちをコントロール
する力を養い、お互いを認め合う集団を作っていきます。
また、学童期を視野に入れた保育を行います。

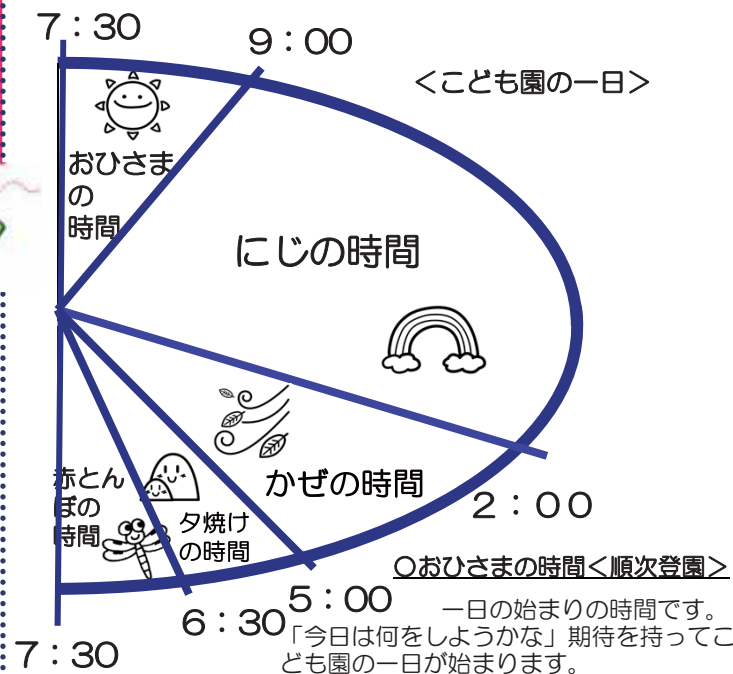
(異年齢保育)

共に生活する中で、支え合う気持ちを持ち、心地良く過
ごす中で、思いやりや憧れの気持ち、自己肯定感を育て
ていきます。

<園目標>

- 健康でいきいきとした子ども
- 豊かな感性と思いやりをもった子ども
- 自分で考え行動する子ども
- 友達いることを喜び、互いに認め合える子ども
- 生命を大切にする子ども

<こども園の一日>



○おひさまの時間<順次登園>

一日の始まりの時間です。
「今日は何をしようかな」期待を持ってこ
ども園の一日が始まります。

○にじの時間<日案にそったクラス保育>

仲間と一緒に遊びを展開していきます。ひとりひとりが“自分らし
さ(自分のカラー)”を発揮し友達同士で主体的な遊びを展開します。

○かぜの時間<異年齢保育>

休息(午睡)後のさわやかな時間です。いろいろなクラスとかか
わって過ごします。幼児クラスは異年齢グループで過ごします。

○ゆうやけの時間<順次降園>

落ち着いた雰囲気の中でそれぞれのあそびを楽しみます。

○赤とんぼの時間(延長保育)

家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごします。

認定こども園 三鷹中原幼稚園

幼児教育と保育の一体化・地域における子育て支援の施設として

中原幼稚園では平成21年4月1日より、
認定こども園三鷹中原幼稚園を開設しました。



認定こども園とは

急速な少子化の進行や家庭・地域社会を取り巻く環境の変化などを背景に、就学前の子供に対する教育・保育や子育て支援などを総合的に行う仕組みとして、平成18年10月に創設された制度です。
また、以下の機能を備えた施設のことを言います。

1. 就学前の子供を、保護者の就労の有無にかかわらず、受け入れ、幼児教育・保育を一体的に提供する機能
2. 地域における子育て支援を行う機能

詳しくは、[文部科学省・厚生労働省幼保連携推進室](#)をご覧ください。

認定こども園になると

□ 教育と保育の一体化

これまでの幼稚園の教育に加え、長時間の保育を必要とする方に対して、保育所並みの保育時間を確保し、保育所的な機能も備えます(幼稚園もこども園も保育は合同で行います)。

□ 就労の有無を問いません

これまでの保育園とは異なり、認定子ども園の入園に就労の有無は問いません。

□ 地域の子育て支援の施設として

在園児の方は勿論のこと、その他の方々に対しても、子育て講演会、子育て相談、未就園児教育を随時行っております。

これまで通りの幼稚園の保育時間から、
保育所並みの保育時間まで、保育時間の
多様化をはかり子育て環境を充実させます！
一方で、長時間保育を受ける子へのケアや、
保護者の方への子育てアドバイス等、
バックアップもしっかり行います。

保育時間の多様化

幼稚園 9:00~14:00(午前保育 ~11:30)

5時間保育

認定こども園(基本) 9:00~17:00

8時間保育

認定こども園(最長) 7:30~18:30

11時間保育 保育所並



三鷹中原幼稚園は子育てママを応援します！

メールでのお問い合わせはこちらをクリックしてください。



・三鷹中原幼稚園・ 〒181-0005 東京都三鷹市中原4-12-26 TEL 0422(45)0669 FAX 0422(45)0675

Copyright 2003-2010 Tokyo Mitakanakahara Kindergarten All rights reserved.
無断転載・無断使用を禁じます。

